

2024年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年4月15日
東

上場会社名 株式会社パシフィックネット 上場取引所
コード番号 3021 URL <https://www.prins.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上田 雄太
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 杉 研也 (TEL) 03-5730-1441 (代表)
四半期報告書提出予定日 2024年4月15日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年5月期第3四半期の連結業績(2023年6月1日~2024年2月29日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年5月期第3四半期	4,935	4.2	403	26.3	389	25.0	256	31.1
2023年5月期第3四半期	4,738	18.6	319	21.5	312	21.4	196	26.3

(注) 包括利益 2024年5月期第3四半期 256百万円(31.1%) 2023年5月期第3四半期 196百万円(26.3%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2024年5月期第3四半期	49	32	49	02
2023年5月期第3四半期	38	27	38	03

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年5月期第3四半期	9,214		2,884		31.3	
2023年5月期	8,008		2,739		34.2	

(参考) 自己資本 2024年5月期第3四半期 2,883百万円 2023年5月期 2,738百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
2023年5月期	円	銭	円	銭	円	銭
2024年5月期	—	0.00	—	40.00	40.00	—
2024年5月期(予想)	—	0.00	—	41.00	41.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年5月期の連結業績予想(2023年6月1日~2024年5月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	7,100	10.9	650	22.7	620	19.7	395	17.5	77	03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年5月期3Q	5,386,900株	2023年5月期	5,285,700株
② 期末自己株式数	2024年5月期3Q	137,194株	2023年5月期	137,194株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年5月期3Q	5,210,927株	2023年5月期3Q	5,123,197株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 用語及び当社の事業セグメントのご説明

経営成績の概況の説明において、使用する用語とその内容は以下の通りです。

用語	内容
L C M	Life Cycle Managementの略。 P C、Wi-Fi、モバイル機器等の導入、運用・管理、使用後のデータ消去・適正処分を管理する仕組み。
サブスクリプション	製品やサービスを購入するのではなく、利用期間や利用量に応じて月額や年額等で代金を支払う方式。 利用者（顧客）は高額な初期費用の負担が軽減され、サービス提供者は利用者（顧客）との継続的な関係構築、持続的な収益確保（ストック収益）が可能となります。
I T機器サブスクリプション (I T機器レンタル)	当社での呼称。法人・官公庁等が業務で使用するP C、Wi-Fi、モバイル機器等のI T機器を、中長期または短期で提供します。 売上高の大部分は故障対応サービス付き3～5年の中長期サブスクリプション（レンタル）です。
サブスクリプション資産 (財務諸表ではレンタル資産)	I T機器サブスクリプション・サービス用の資産 (P C・Wi-Fi・モバイル機器等)
I T A D	IT Asset Dispositionの略、I T機器の適正処分の意味。 情報セキュリティ上安全、かつ適法（環境法、国際条約、資源有効利用促進法等）な処分は、コンプライアンス・ガバナンスにおいて経営上の重要事項と位置付けられ、欧米で一般化しています。
ガイドレシーバー (日本旅行業協会での呼称) イヤホンガイド® (当社での商品名・商標)	送信機と複数の受信機からなる、手のひらサイズの音声ガイド用無線機器。観光地ガイドを中心に、国際会議での通訳、騒音の多い工場見学、大きな声を出せない美術館や博物館等、各種ガイド用途で利用されています。 当社グループでは「イヤホンガイド®」という商標で提供し、観光利用では90%以上のシェアを有しています。
デジタルトランスフォーメーション (略称：D X)	進化したI T技術を活用したビジネスや業務の変革。デジタル化。 例えば、クラウド、5 G（第5世代移動通信システム）、I o T、A I等の最新テクノロジーを新製品やサービス開発、業務変革に活かすこと。

また、当社の事業セグメントと提供サービスは以下の通りです。

事業セグメント	主なサービス内容
I Tサブスクリプション事業 (ストック収益中心)	法人・官公庁が業務で使用するP C等のI T機器サブスクリプション、I T環境の運用保守、ヘルプデスク、クラウド等のI Tサービスで構成。 サブスクリプション型サービスが大部分を占めています。 ◆ I T機器サブスクリプション（中長期レンタル中心） ◆ I Tサービス（運用保守、通信、クラウド系ソリューション等）
I T A D事業 (フロー収益)	使用済みI T機器のデータ消去、適正処理サービスです。 ◆使用済みI T機器のセキュアな回収、データ消去 ◆リユース・リサイクル販売 (高価値品はテクニカルセンターで製品化し、リユース販売。リユース困難な機器については分解して素材化し、当社の監査基準を満たすリサイクル業者へ販売し、廃棄物削減と適正処理を推進)
コミュニケーション・デバイス事業 (フロー収益)	イヤホンガイド®関連サービスです。 国内の旅行関連市場では当社グループのイヤホンガイド®がガイドレシーバーのシェア90%以上を有しています。 ◆イヤホンガイド®の製造販売、レンタル ◆イヤホンガイド®の保守・メンテナンスサービス

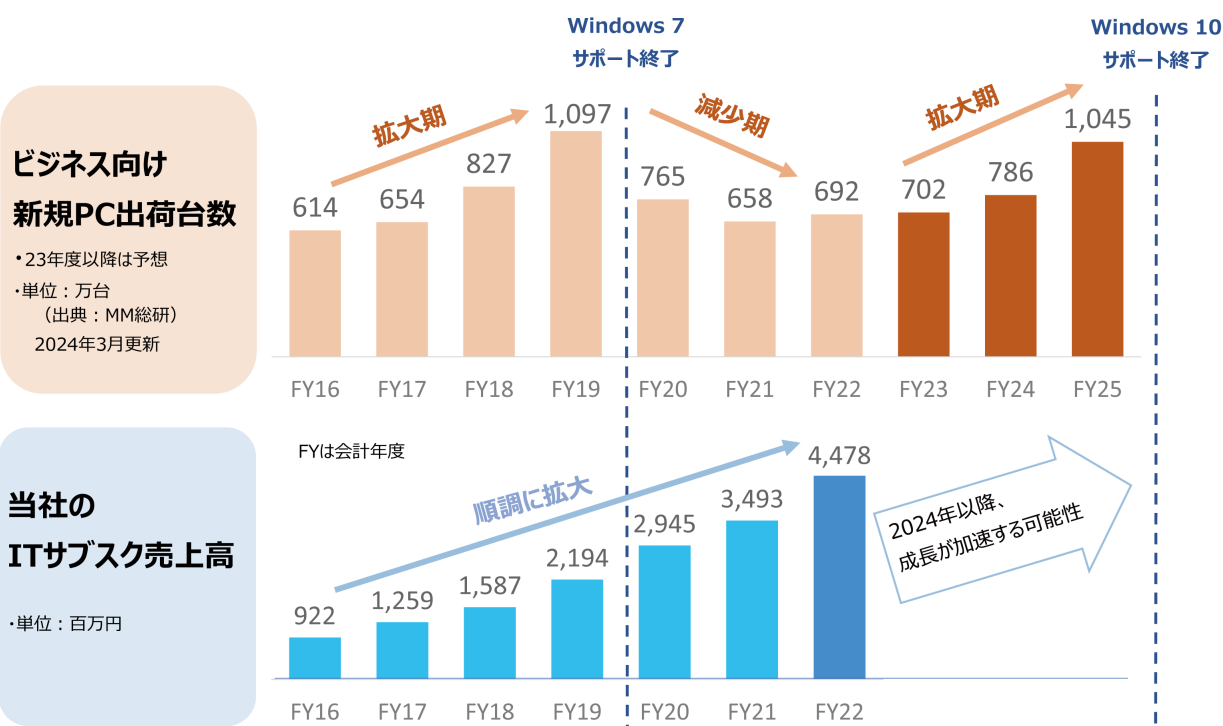
② 2024年5月期第3四半期(2023年6月～2024年2月)の経営成績

◆事業環境

当社は、ITサブスクリプションを中心としたストック収益拡大を最も重要な経営課題と位置付けております。

2020年1月のWindows 7 サポート終了後、国内のビジネス向け新規PC出荷台数は反動減となりましたが、当社のITサブスクリプション事業は順調に拡大しました。これは、PC調達方法としてのサブスクリプションの認知度向上、IT部門の業務負担軽減ニーズの高まりを背景としてビジネス向けPCのサブスクリプション利用率が年々上昇し、新規PC出荷台数が減少する中でもその市場が拡大していることによります。

今後については、2025年10月のWindows 10 サポート終了に向けて、2024年からPC更新拡大期に入ると予想されています。PC更新拡大期に入ると、法人のIT部門の業務負荷が増大するため、サブスクリプションへのシフトがさらに進むとともに、IT機器管理全般を外部委託するLCMサービス、データ消去等のITADサービスのニーズが高まり、当社事業の成長速度の上昇が見込まれます。



この事業環境を踏まえ、以下を重点課題として先行投資等を行っております。

- ①成長機会に備えたサービス提供インフラの整備(人材・設備・DX)
- ②サブスクリプション型サービスの拡大(ITサブスクリプション、ITAD、LCMサービス全般)
- ③SDGs支援強化(当社事業そのものがSDGs直接支援となる)
- ④資産効率・収益性の向上

詳細は、2024年4月15日付「2024年5月期第3四半期 決算説明資料」をご参照ください。

◆2024年5月期第3四半期 連結業績について

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高の過去最高を5期連続で更新いたしました。前年同期に一時的な売上高・各利益の増加要因(※1)があったため、前期比では4.2%の増収にとどまりましたが、重点課題であるストック収益は、着実に成長しております。また、営業利益は、前述した前期の一時的増益、今期の積極投資による先行コスト増加の影響を収益性向上策でカバーし、25%以上の増益となりました。

(※1) 前期の一時的要因は次のとおりです。

- ・サブスクリプション資産(勘定科目はレンタル資産)の世代交代・売却に伴う売上・利益増
- ・サブスクリプション資産(同)の耐用年数変更に伴う減価償却費減少(利益増)

なお、当第3四半期連結会計期間の減益については、前第3四半期にコミュニケーション・デバイス事業での大型販売による売上高・利益の増加があった事と、当第3四半期に、東京カスタマーセンター新設と福岡支店の移転に伴う一時費用を計上したことが主な要因です。

セグメント別では、国内のビジネス向け新規PC出荷台数が伸び悩む中でもITサブスクリプション事業は順調に拡大いたしました。ITAD事業は回復の遅れから前年同期比で減収でしたが、収益性が向上し増益となりました。コミュニケーション・デバイス事業は、旅行業界の回復と連動して改善基調となりました。

投資面では、2025年10月のWindows 10サポート終了に伴うPC更新需要の拡大を見据え、戦略投資を前期よりも拡大し、先行コストが増加いたしました。具体的には、人的資本への投資(人事・給与制度の全面改正、昇給、IT人材の積極採用)、DX強化、新規商談獲得のための大規模展示会への出展を積極実施するとともに、各エリアでの事業拡大と人材確保を目的として札幌支店・名古屋支店・福岡支店のオフィスを都心部へ移転いたしました。また、東京カスタマーセンターを本社近隣に新設し、ヘルプデスク等のサービスと人材確保の強化を図りました。

(単位：千円)

当社グループ	第3四半期 連結会計期間	前期比 増減率	第3四半期 連結累計期間	前期比 増減率
連結売上高	1,702,742	7.1%	4,935,300	4.2%
連結営業利益	142,755	△7.2%	403,246	26.3%
連結経常利益	133,293	△10.7%	389,980	25.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	89,378	△6.5%	256,985	31.1%
E B I T D A (※2)	706,826	13.0%	2,025,270	18.9%

(※2) E B I T D A : キャッシュベースの利益。営業利益+減価償却費+のれん償却費で算出

セグメント業績は、次のとおりです。

◆ITサブスクリプション事業（IT機器サブスクリプション、ITサービス）

前年同期は一時的な売上高・利益の増加があったため（前述の※1）、当第3四半期連結累計期間では前年同期比で売上高は微増、利益は微減となりましたが、重点課題である当セグメントの業績は順調に拡大していると評価しております。企業のIT部門の負担軽減につながる当社サービスへのニーズは強く、当セグメントの大部分を占めるサブスクリプション売上高は当第3四半期も順調に拡大しております。また、サブスクリプション資産（勘定科目はレンタル資産）は、引き続き高い稼働率での運用を実現しております。

コスト面では、当第3四半期も投資（サブスクリプション資産の調達、オフィス移転、人材の採用、DX推進等）を積極的に実行したことで先行コストは増加しましたが、PC更新需要に備えサービス供給力強化は進んでおります。

今後については、2025年10月のWindows 10 サポート終了に伴うPC更新の拡大期に入ると予想されます。これにより企業のシステム部門の業務負担はさらに増加し、当社が提供するサブスクリプションへのニーズが高まる為、業績は好調に推移すると想定されます。

（単位：千円）

ITサブスクリプション事業	第3四半期 連結会計期間	前期比 増減率	第3四半期 連結累計期間	前期比 増減率
売上高	1,214,100	11.2%	3,550,503	6.8%
セグメント利益	146,190	(※3) △12.6%	445,403	(※3) △1.1%

(※3) 前期に実施したサブスクリプション資産（勘定科目はレンタル資産）の耐用年数変更・減価償却費減少の影響を除くと、下記ようになります。

- ・当第3四半期連結会計期間：セグメント利益は前年同期比 8.5%増
- ・当第3四半期連結累計期間：セグメント利益は前年同期比 36.6%増

◆ITAD事業（使用済みPC等のデータ消去・適正処理サービス）

外部環境の影響を受けやすい事業構造からの転換を図るため、引き続きサービス収益の拡大を進めております。

国内の新規PC出荷台数の低迷により法人・官公庁からの使用済みPCの排出は本格回復には至らず、入荷量は前年同期比で減少したため、サービス以外の売上高（リユース販売等）は減収となりました。

一方、重点課題であるデータ消去・引取回収・排出管理BPOなどのサービス収益は、サービス範囲拡張や営業強化策により順調に拡大しました。また、リユース販売についても、採算性の高い使用済みPCの確保を進めるとともに、優良リユース品となる当社サブスクリプション終了品の販売が好調に推移し、収益性が向上いたしました。

以上の諸施策により、当第3四半期連結累計期間での売上高は減収でしたがセグメント利益は10%以上の増益となりました。

今後、Windows 11 更新需要に伴い、使用済みPC入荷台数は回復基調に向かうと予想され、さらに、重点課題であるサービス収益についても、商談は増加中で、ITサブスクリプションやLCMサービス全般への取引拡大も見込める状況にあります。

(単位：千円)

ITAD事業	第3四半期 連結会計期間	前期比 増減率	第3四半期 連結累計期間	前期比 増減率
売上高	456,387	3.8%	1,268,483	△10.0%
セグメント利益	146,739	19.2%	375,689	13.8%

◆コミュニケーション・デバイス事業（イヤホンガイド[®]の製造販売、レンタル、保守メンテナンス）

前年同期は、特定の旅行会社への大口販売による一時的な売上高・各利益の増加がありましたが、この影響を除くと、順調に拡大している状況にあります。

当第3四半期は国内旅行の閑散期にあたりましたが、訪日旅行向けレンタルや工場見学などの旅行業以外への販売は好調に推移しました。当第4四半期連結会計期間に旅行業界が繁忙期に入ることに加え、訪日旅行の更なる拡大も見込まれるため、在庫確保、業務のDX化による生産性の向上を進めております。

(単位：千円)

コミュニケーション・デバイス事業	第3四半期 連結会計期間	前期比 増減率	第3四半期 連結累計期間	前期比 増減率
売上高	47,417	△35.3%	160,691	6.6%
セグメント利益	2,888	△78.6%	17,142	(前期は△1,397)

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、9,214,081千円（前連結会計年度末比1,205,935千円増）となりました。

この内、流動資産は1,928,199千円（前連結会計年度末比34,640千円増）となり、主に売掛金が43,923千円、商品が10,414千円、その他が49,957千円それぞれ増加し、現金及び預金が71,367千円減少したことによります。

固定資産は7,285,881千円（前連結会計年度末比1,171,295千円増）となり、主にサブスクリプション資産（勘定科目はレンタル資産(純額)）が1,068,364千円増加したことによります。

負債は6,329,814千円（前連結会計年度末比1,061,381千円増）となりました。

この内、流動負債は2,968,874千円（前連結会計年度末比245,907千円増）となり、主に1年内返済予定の長期借入金が293,461千円増加し、未払法人税等が146,357千円減少したことによります。

固定負債は3,360,939千円（前連結会計年度末比815,473千円増）となり、主に長期借入金が825,982千円増加したことによります。

純資産は2,884,266千円（前連結会計年度末比144,554千円増）となり、主に親会社株主に帰属する四半期純利益256,985千円、新株予約権の行使による資本金・資本剰余金がそれぞれ46,855千円増加した一方、剰余金の配当により205,940千円減少したことによります。

また、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は31.3%（前連結会計年度末は34.2%）で、1株当たり純資産額は549円31銭（前連結会計年度末は531円99銭）であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年10月のWindows 10 サポート終了に伴うPC更新需要の高まりにより、今後、ITサブスクリプション事業は成長ペースが上昇し、ITAD事業も回復基調に向かうものと想定しております。コミュニケーション・デバイス事業は、観光需要の高まりを受け、業績が拡大すると想定しております。

今後の予測は以上のとおりですが、2023年7月14日公表の通期の連結業績予想は現時点では変更していません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,172,364	1,100,996
売掛金	541,593	585,516
商品	79,358	89,772
仕掛品	487	2,184
その他	99,771	149,728
貸倒引当金	△15	-
流動資産合計	1,893,559	1,928,199
固定資産		
有形固定資産		
レンタル資産	9,417,358	11,149,479
減価償却累計額	△4,161,519	△4,825,276
レンタル資産(純額)	5,255,839	6,324,203
その他	727,538	818,929
減価償却累計額	△410,575	△443,698
その他(純額)	316,963	375,230
有形固定資産合計	5,572,802	6,699,434
無形固定資産		
のれん	3,285	-
その他	125,681	113,250
無形固定資産合計	128,967	113,250
投資その他の資産		
差入保証金	144,610	197,214
その他	284,234	291,146
貸倒引当金	△16,028	△15,164
投資その他の資産合計	412,815	473,197
固定資産合計	6,114,585	7,285,881
資産合計	8,008,145	9,214,081
負債の部		
流動負債		
買掛金	129,160	183,504
1年内返済予定の長期借入金	1,756,080	2,049,541
未払法人税等	179,745	33,388
賞与引当金	-	43,521
その他	657,980	658,918
流動負債合計	2,722,967	2,968,874
固定負債		
長期借入金	2,392,142	3,218,125
資産除去債務	59,747	62,674
その他	93,576	80,140
固定負債合計	2,545,466	3,360,939
負債合計	5,268,433	6,329,814

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	484,004	530,859
資本剰余金	577,037	623,892
利益剰余金	1,796,839	1,847,884
自己株式	△118,925	△118,925
株主資本合計	2,738,954	2,883,710
新株予約権	757	555
純資産合計	2,739,712	2,884,266
負債純資産合計	8,008,145	9,214,081

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年6月1日 至2023年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年6月1日 至2024年2月29日)
売上高	4,738,300	4,935,300
売上原価	2,830,590	2,881,840
売上総利益	1,907,709	2,053,459
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	617,195	637,874
賞与引当金繰入額	28,425	33,547
退職給付費用	19,730	24,796
地代家賃	177,815	194,647
その他	745,348	759,347
販売費及び一般管理費合計	1,588,516	1,650,212
営業利益	319,193	403,246
営業外収益		
受取利息	5	6
受取補償金	-	10,545
保険解約返戻金	3,200	-
雑収入	3,717	1,841
営業外収益合計	6,923	12,393
営業外費用		
支払利息	13,384	25,345
雑損失	643	313
営業外費用合計	14,028	25,659
経常利益	312,088	389,980
特別利益		
固定資産売却益	27	-
リース債務解約益	-	259
特別利益合計	27	259
特別損失		
固定資産売却損	93	-
固定資産除却損	32	2,894
特別損失合計	125	2,894
税金等調整前四半期純利益	311,989	387,345
法人税、住民税及び事業税	129,275	115,523
法人税等調整額	△13,366	14,837
法人税等合計	115,908	130,360
四半期純利益	196,080	256,985
親会社株主に帰属する四半期純利益	196,080	256,985

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2023年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2024年2月29日)
四半期純利益	196,080	256,985
その他の包括利益		
四半期包括利益	196,080	256,985
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	196,080	256,985

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年6月1日至2023年2月28日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	IT サブスクリ プション 事業	ITAD 事業	コミュニケ ーション・ デバイス 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,174,528	1,409,231	149,639	4,733,400	4,900	4,738,300	—	4,738,300
セグメント間の内部 売上高又は振替高	150,778	—	1,076	151,854	—	151,854	△151,854	—
計	3,325,307	1,409,231	150,716	4,885,255	4,900	4,890,155	△151,854	4,738,300
セグメント利益又は損 失(△)	450,316	330,076	△1,397	778,995	△334	778,661	△459,467	319,193

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材紹介・派遣事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△459,467千円は、主に報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年6月1日至2024年2月29日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	IT サブスクリ プション 事業	ITAD 事業	コミュニケ ーション・ デバイス 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,508,194	1,268,483	158,622	4,935,300	—	4,935,300	—	4,935,300
セグメント間の内部 売上高又は振替高	42,308	—	2,069	44,378	—	44,378	△44,378	—
計	3,550,503	1,268,483	160,691	4,979,678	—	4,979,678	△44,378	4,935,300
セグメント利益	445,403	375,689	17,142	838,234	—	838,234	△434,988	403,246

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材紹介・派遣事業であります。

2. セグメント利益の調整額△434,988千円は、主に報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。